

授業概要

人間文化学科に所属する 7 人の教員が「自然、人間、超自然」をテーマに、それぞれの専門分野に即して講義し、問題提起する。歴史、文学、言語、文化の多様な領域を横断するバラエティに富み、かつ知的好奇心を刺激する内容の講義が展開される。学生も、教員に劣らぬ知的好奇心と熱意をもって受講してもらいたい。

授業計画

第 1 回	西山 ガイダンス
第 2 回	熊田 (1) 「人間のイメージ」— 語源の背後にある思想とともに
第 3 回	熊田 (2) nature の語源 — 「生み出すもの」から「自然」へ
第 4 回	掛野 (1) 「自然」を描く— 日本近代文学の場合
第 5 回	掛野 (2) 「超自然」を描く— 日本近代文学の場合
第 6 回	湯浅 (1) 陰陽五行説によって森羅万象を読み解く
第 7 回	湯浅 (2) 天体の運行を人間世界に映し出す
第 8 回	高山 (1) 伝統の呪文— おほはらへのことば
第 9 回	高山 (2) 伝統の呪文— いろはうた
第 10 回	福島 (1) 闘争は人間社会の必然か
第 11 回	福島 (2) 映画『私は貝になりたい』に見る戦争と人間
第 12 回	伊藤 (1) 奴隷貿易— 人間の『自然』なお値段のつけ方とは
第 13 回	伊藤 (2) 同上
第 14 回	西山 (1) 小泉八雲とカリブ海のゾンビの物語
第 15 回	西山 (2) 小泉八雲と多文化的妖怪・幽霊の物語
第 16 回	レポート試験

到達目標

- ① さまざまな学問分野について興味関心を持ち、自分なりに考えることができるようになる。
- ② 提起されるテーマについて自ら考え、調べ、発信できるようになる。
- ③ 自ら問題提起ができるようになる。

履修上の注意

教室に座って板書を書き写すだけの時間にしてはならない。授業では特定のテーマについて答えを教えるのではなく、問題提起を行うことになる。それについて自ら資料を集め、思考し、結論を出し、それを文章化する作業を行うことが必要である。各講義は 2 回だけなので、欠席しないようにすること。

予習復習

シラバスに記載されたキーワードについて調べておくことが予習になる。また、各担当回終了ごとに課題が出されるのでそれに答えることが復習となる。

評価方法

7 人の担当者がそれぞれの担当回で評価し、それを合計して全体評価とする。

テキスト

統一テキストは使用しない。教材は各担当者が授業内で配布する。